祭礼 鯨井八坂神社の夏祭典 天王様について

7月14日 (18:00)から 浅間様
7月15日 (11:00)から 天王様

近年は子供たちが参加できるようにと7月15日に近い土曜日・日曜日に行われる

由来

無病息災、五穀豊饒を祈願する祭りである

暦の九星色で、九枚九反（以前は十二色十二反）の布で作った。

10メートルの水引を付けた重さ60キロもある、巨大な獅子頭を四人がかりで担ぎ、この水引に30人ほどの若者がからみ、先頭の獅子頭の激しいもみあいによって併せて「ワシヨイ・ワシヨイ」と掛け声も勇ましく辻々を駆け抜ける。

11時に神社を出発した一行は鯨井地内を練り歩き、途中休憩所や自治会長宅に寄って鯨井の万作踊りや下妻踊りを披露する。特に新築した家でわお酒を出して万作を踊ってもらう。天王様は悪魔よけとしておこなわれ、水引は安産のお守りとして嫁の腹帯にするためにその家の姑が貰っていく。又ときにわ、赤ん坊のおでき頭、寝込んでいる病人の家でわ天王様にたのんでお獅子の大きな口を開けて、パツと噛んでもらったりする。そのときわ一同大歓声をあげる。お獅子は厄病を川で綺麗に洗い流し、神社に戻って来るのわ午後6時頃

獅子頭

文久二年頃（1862年）鯨井に伝染病が蔓延し、神の御札を辻々に貼り厄病払いを行ったのですが蔓延が止まらず、より強い獅子頭を作り疫病撲滅を祈りました。

獅子頭は元治元年（1864年）今から139年前「[小林齊能山越前之助藤原正信](#)」と記してある。獅子頭は、小畔川に生えていた、エゾ松の大木の根で彫られ、当初は米1俵（60Kg）程の重量があったと言われてますが、現在では45Kgである。

獅子頭を彫刻していた人が、風呂をもらいに来ていた真仁田啓宅へ、お礼として同じエゾ松の木で彫った大黒様を、おいていった。大黒様の底にわ「[小林齊能山正信](#)」と

彫ってある。彫りの素晴らしい大黒様は今でも、真仁田家に祀ってあります。この人どこに宿をとっていたのか、どこの人か、どこへ行ったかそれっきり言い伝えがない。

鯨井万作踊り

■ 由来・伝承

明治初年に、鯨井の真仁田市平(明治初年生まれ)という人が村人に教えたのが始まりという。彼がどこで習ったか、またどのような人物であるかは、明らかでない。当時20～30人の村人が習ったという。戦前次の四カ所に、万作踊りを教えた。

■川越市上戸(昭和の初め)

■鶴ヶ島三ツ木(上戸より1～2年遅れて教える)

■川島町釘無(作男に来ていた2～3人に教えた)

農閑期に出向いて行って教えたが、後継者が育たず続かなかった。

昔は17歳になると若い衆に仲間入りした。(現在は20歳)30歳までであるか、結婚していても、その家の戸主であれば若い衆仲間であった。仲間に入るとすぐ、万作踊りを、習わせられる。1週間位稽古する。その年に入った者(成人した者)が中心になって踊る。天王様の日若い衆は獅子を担いで、村廻りをし休憩所や民家の庭で万作踊りを、一踊りする。鯨井の万作は成人に達したら、必ず習わなければならないもので、若い衆達によって踊り継がれて来たものである。昔とちがって若い衆だけと、言うわけにも行かぬが、昭和生まれの者がほとんどである。

■ 楽器・衣装

囃子方は太鼓一人(太鼓は立てて置いて叩く。歌唄いが叩く)笛一人、すり鉦一人である。大太鼓は鉦打ちで、丈58センチ、経46.5センチ、中央胴回り199センチ、すり鉦は外形13センチ、内径12センチ、厚さ3センチ、2カ所に鈴と赤・青の房を付ける。笛は7つ穴の篠笛で、長さ39.3センチ 衣装は村廻りの時は猿股、浴衣地の半地襦袢、ねじり鉢巻き地下足袋(昔は裸足)である。

若い衆の仲間に入ると、半地襦袢お作るものだという。そのほかのときは、揃いの浴衣に白足袋手拭い鉢巻き、青の襷掛け。万作踊りは豊年祝の意があるので、必ず白足袋を履くのだという。また昔は娘衆の着物を借りて着たものだという。

演目

- 下妻踊り 伊勢音頭 相撲甚句 数え歌 八木節 手踊り
手拭い踊り 花笠踊り 追分

鯨井万作手踊り保存会について

■ 鯨井万作保存会趣意書

私達は先祖が営々として築いてきた郷土の伝統を護持し、益々発展させることが必要だと思っております。私達郷土鯨井にわ古くから伝わって来た、万作手踊りが現存いたしております。若しも私達がこのまま放置するならば、この祖先の遺した万作手踊りわ、後継者は絶え郷土から永久に、喪失することでありましょう。

私達はこのことに、思いを致すとき祖先の生活の知恵とも、言うべき万作手踊りを、保存継承し後世に伝えるべき責務があると、しみじみ痛感いたしている次第です。

私達がこれらの責務を、忘却するならば、今後郷土の健全な発展わ、けしてあり得ないと思っております。どうか皆様方のご支援ご協力を、切にお願い申し上げます。

昭和49年二月 鯨井万作手踊り保存会発起人代表

真仁田 啓 荻野玄三

鯨井万作踊りは、川越市指定民族文化財に指定されました。

指定 昭和55年2月13日 川越市教育委員会

以上鯨井史より抜粋 昭和58年3月31日 発行